丸山湿原群保全の会会報

（第 113 号）

発行日：平成 28 年 12 月 14 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会

〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

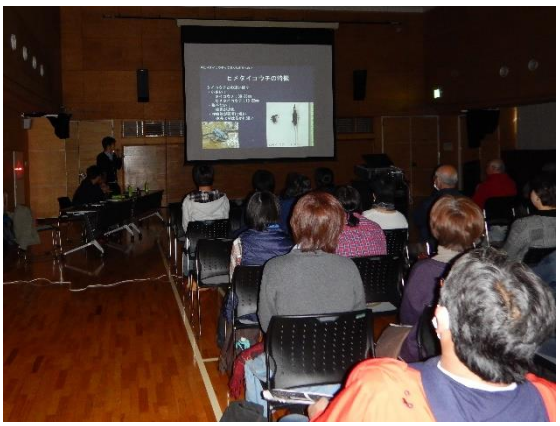
いよいよ冬到来。丸山も静かな季節を迎えつつあります。

朝晩の冷え込みも厳しくなり０℃以下になる日も増えてきました。**今朝も霜で真っ白。初氷も池に張りました。**（玉瀬自宅付近）

冬枯れの丸山は落葉後の木の幹が凛として気持ちのいいものです。霜柱や時にはつららも楽しめます。野鳥の観察にも適した時期、ぜひ活動にご参加を。

（今住　12 月 12 日作成）

丸山湿原セミナー報告　2016.11.19



セミナーの様子

皆さんの協力の下、予定通り実施することが出来ました。丸山湿原の基本確認（武田顧問）、ヒメタイコウチの生態（中濱氏）、花と虫の関係（内田氏）をパワーポイントを使いわかりやすく説明されました。質問も多く出され、実りあるセミナーになりました。

講師の先生方は、西谷の自然（生態系）を研究テーマに多くのレポート・論文を書かれています。その研究の中から、西谷の自然環境は、全国的に見ても生物多様性が高く希少性の高い地域であるとお話しされていました。地域に住む人が、そのことをよく理解し、興味を持てたらステキだなと思います。

参加人数は 31 名。西谷の方の参加が少ないのが残念でした。宣伝・啓発の方法をより工夫していく必要性ありです。

中濱氏が作った西谷産水生昆虫標本

活動報告

★11 月 27 日（日）雨のため活動中止！

メール連絡できるところは、9時ごろに連絡しましたが。連絡できない人のために、現地で辰巳さんに 10 時 30 分頃まで待機していただきました。ご苦労様でした。

★12 月 10 日（土）（写真は全て当日丸山で撮影）

6名で活動。定期基礎調査、巡回、ごみ回収、観察、外来種除去

目的	市内	市外
丸山	7	8
ハイキング	10	2
その他	0	0

来場者数　　**計 27 人**
（竹筒ポスト人数）

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度
入口	10：13	12℃	
視点場	11：10	8℃	
第３湿原	10：55	【8.8℃】	26μS/cm
第１湿原	11：25	【7.5℃】	25μS/cm
第２湿原	12：07	【10℃】	30μS/cm

【駐車場付近】

駐車場付近は、ごみ捨て場と思っている人がいるようです。車を止めて掃除をする。小川の水を汲み車を美しく。結構です。車内の掃除も・・・出てきたごみは？山にポイ！夏場は気づきませんが、葉が落ち木が幹だけになると見つかります。ほら写真の通り。以前にも謎のエビせんべいや、車の取説など妙なごみが見つかっています。

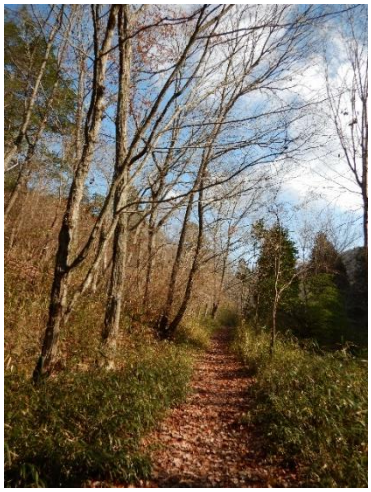
さらに今回は土嚢袋。砂利が入っているのかと思うと、セメント（コンクリート）の現場残りの廃棄物が袋の形をして出てきました。ひょっとすると丸山の駐車場は、来る人が少ない平日、秘密の隠れ家（悪い意味で）として使われているのかもしれません。

廃棄場にならぬよう気を付けなければ・・・監視カメラは近くにいくつかありますが。

駐車場付近の廃棄物

【湿原までの道】

湿原までの道はすっかり冬の様相。葉もほぼ落ち木の幹と枝が凛として美しい！



葉の落ちた湿原までの道

葉が残るナラ枯れ木

今年猛威を振るったカシナガキクイムシ。被害木の伐採が、県からの依頼で西谷自治振興により行われました。ハイキング道の安全確保限定です。大径木（30 ㎝以上）の木はなかなかプロでないと対応は危険です。斜面のコナラやアベマキ・枯れマツ・枯れサクラなどが玉切りにして積まれています。

第 1 湿原内の 2 本のコナラ（被害木）も切られました。一部はベンチのようにおいてありますので、腰掛にでもご利用ください。

玉切り放置された被害木

ナラ枯れの木はまだまだあり、来年以降も増えると思われます。カシナガホイホイや、薬剤散布の方法はありますが、カシナガのマスアタック（集団攻撃）に追いつくことは無理かと思います。費用の面も莫大になります。ある研究では、主にコナラの古木から古木に移っていき、古木がなくなれば別の地域に移動し集束していくそうです。5 年から 10 年かかる。本来、薪炭に使われていた木です。樹齢 50 年は普通なかったと考えると、ある意味調整機能が働いているのでしょうか。

カシナガキクイムシの穴

西谷は燃料革命が比較的遅い時期に来ております。被害期間は意外と短いかもしれません。枯れた木の後は陽光がよく入り、眠っていた草本類が増えるとか。多様性の面でもプラスに働くと報告があります。（武田顧問のレポート）

被害木の切り口を観察すると、カシナガキクイムシが開けた穴が観察できます。樹皮側の導管をズタズタにし、水の吸い上げが出来なくなった様子がよくわかります。

主に根元付近の一番太い部分に入り込むようで、上部に穴は確認できません。運び出しさえ出来れば、シイタケの原木や薪に有効利用できるのですが、何分道のりが厳しい。玉切りにし積んで置くことしかできません。何か知恵をお貸しください。ただしその場で原木シイタケ栽培は NG です。たぶん・・・

【湿原の様子】

すっかり枯れた第 1 湿原

第 1 湿原に入り込んだアカマツ

湿原はすっかり冬景色です。ヌマガヤ・ススキ・ササが枯れ、茶色の世界になっています。さすがにミミカキグサも確認できません。

やはり気になるのは、ススキ・ササに象徴される乾燥化です。第 1 湿原上部には松も復活してきました。今後、草刈りや刈り取り時期などを調整しながら実施していきます。

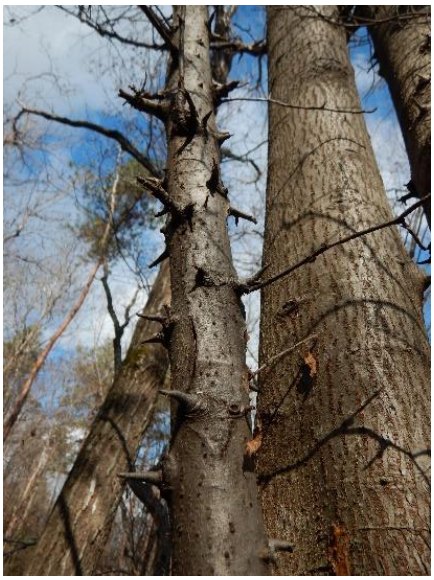
計画を練りますので活動よろしくお願いします。

湿原内ではありませんが、冬になるととても凛々しく感じる木があります。オオウラジロノキです。幼木の間は、全身とげだらけですが、大きくなると白っぽくなり表面が剥離してきます。若い枝はやはりとげのように生え、先に葉をつけます。青空に美しく映えます。バラ科リンゴ属の木本で小さなリンゴが出来ます。かじると渋い！生食は無理です。渋抜きをするとおいしいに違いありません。ホワイトリカーに漬けると最高の果樹酒になるとか。ぜひお試しを。ただほんの数本しかありません。奈良・京都・岡山など 12 府県で RDB 指定されています。

もともと稀な木のようです。探してください。湿原すぐ近くに株立ちも含め 3 本はあります。

オオウラジロノキ

オオウラジロノキの新しい枝



オオウラジロノキ若木

オオウラジロノキの実（リンゴ）

【第４湿原木道計画】

県の計画でより近くでハッチョウトンボや、サギソウなどの動植物を観察できるように、**第４湿原に木道（簡易的なものになりそうですが）を設置予定だそうです。**現在観察にはよく踏み込んでいる場所です。踏み固めが心配されていましたがそれも解消されるのでは。**いつでも間近で見られる場所。大切ですね。踏み込みが多くなる危険性も同時に抱えていることを意識する必要はあると思いますが・・・。**いつ施工されるかは聞いていません。本年度中には完成予定と思われます。

第 4 湿原

【第２湿原　再萌芽木処理計画】

前回も連絡しましたが、第２湿原の視点場からの視界を確保するために、**再萌芽した常緑樹を処理（伐採）します。**まだ小枝の段階ですので、小さな鋸や鉈で刈り取りは簡単です。ただ**斜面が急**なこと、**足場が悪い**ので多少の危険は伴います。**「里山整備体験事業」として一般募集します。チラシまでは作りませんが、HP などで宣伝します。現在「里山大学OB」の皆さんが協力していただけることになっています。**（人数は未定）できるだけ多くの参加をお願いします。**日時は、2017 年１月 29 日（日）。10 時から 15 時ごろまでの活動を予定。要昼食。道具は用意します。自分持ちの道具があればお持ちください。チェンソーも可。ただし安全は自分で担保してください。１月は２回目の活動日をこの日に変更します。ご注意を。**

第 2 湿原視点場からの眺め

第 2 湿原試し伐採

【第３湿原再生計画】

12 月 25 日（日）乾燥化が進む第３湿原に、横木を入れ水の停滞と流れの調整を行います。協力できる方はご参加ください。土木作業になると思います。簡易的なものなので、どれほどの効果がるかは？？です。**県の改変許可もおりました。事前状態と、事後の状態の記録と報告が必要です。**次回会報には報告できると思います。

【終わりに】

何気なく見ているアリマコスズ。下記の説明があるが、なかなか同定は難しい。同定にチャレンジしてください。

「**本州の西南部の太平洋側や四国にごく稀に自生する。**稈は低くて細く、高さ 30～60 ㎝、径 1～2 ㎜である。稈は上方および基部で分岐し、稈鞘には開出する長い毛と逆向きの細毛が密生してビロード状である。葉は長楕円状披針形で長さ 14～18 ㎝、両面とも無毛である。」（愛媛県 RDB2014 より転載）次回活動日 12 月 25 日・1 月 14 日 29 日

アリマコスズ